



— Medicine, Doctoral Degree Program —

Division of Second Clinical Medicine

第二臨床医学専攻（外科系）

第

二臨床医学専攻を修了したばかりの渋谷誠さん。肝臓、脾臓を専門とした外科医として腹腔鏡手術に挑みます。その真剣な表情とはうってかわって、元気にインタビューに応じてくれる渋谷さんは、どうして医師を目指すようになったのでしょうか。

「親が開業しているのですが、高校生くらいまでは医者にはなりたくないと思っていました。でも健康っていつの時代でもみんなが気にすること。今考えると、どんな状況でも変わらない価値を持つ仕事と考えたときに、一番身近な仕事を選んだのかもしれない」
 大学を卒業して2年の研修期間を終え、すぐに大学院へ進学した渋谷さん。研修で学んだ技術が落

ちてしまいかもしれないという心配もあった中、「若手外科医として成熟したいという思いもあったし、研究もしたかったんです。若いうちにやっておきたかった」とやりたいことに突き進みます。

子どもの頃にテレビで見たヒーローのような外科医師。そんなイメージと重なる渋谷さんですが、実際に医師になってわかったことがあるのだとか。

「医師にもあらゆる分野の人がいるし、看護師や薬剤師などいろんな人がいないと医療は成り立ちません。役割はどんどん増えていきます。医師はチームの一人にすぎません。医師一人では何もできないんです」

チーム医療が主流の現代、医師のあり方も変わってきているようです。必ずしもはじめから器用じゃなくても、努力次第で大きく成長できる、職人的な感じだと渋谷さんはいます。しかし外科医の不足がメディアでも取り沙汰される近年、責任が大きい分辛い面も大きいのでしょうか？

「辛いことはありますが、その先に大きな喜びが待っています。手術が無事終わったら嬉しいし、それで患者さんにありがとうと言ってもらえるのも嬉しい」

患者さんの笑顔。外科医を続ける気力の根源はやはりそこにあるようです。



渋谷誠さん
 2005年帝京大学医学部医学科卒業。帝京大学医学部附属病院で2年間の臨床研修を経て、2007年帝京大学大学院医学研究科博士課程入学。2011年に修了後、同病院の外科医として勤務。